

水戸都市圏の交通を軸としたまちづくりに関する 学生間研究ミーティング

有澤 誠 研究会

慶應義塾大学総合政策学部3年 緒方 伊久磨

1. はじめに

本報告書では、2009年8月～2009年11月に開催された「水戸都市圏の交通を軸としたまちづくりに関する学生間研究ミーティング」の活動報告と研究成果の報告を行う。

2. 研究目的・内容

慶應義塾大学の「都市交通」や「まちづくり」を研究主体としている学生を主体として、筑波大学と高大連携事業「サイエンスパートナーシップ」を行っており「高校生がつくる『茨城まちづくりプラン 2020』」に参加した水戸第一高校の生徒や明秀学園日立高校の生徒など水戸都市圏の高校生とともに、水戸都市圏における交通を軸としたまちづくりに関する問題共有を行い、グループワークを重ねた上で最終的にORFにて高大連携のまちづくりプランの発表を行うことを目的とした。

2. 開催概要

ミーティング名

水戸都市圏の交通を軸としたまちづくりに関する学生間研究ミーティング

期日

2009年8月2日・4日・5日・9日・13日・16日・
23日・26日・27日・30日
9月5日・19日・26日
10月11日
11月15日・22日・23日・24日

会場：茨城県青少年会館（茨城県水戸市）

ひたちなか市商工会議所那珂湊支所

（茨城県ひたちなか市）

阿字ヶ浦駅・那珂湊駅市民団体特別ブース

（茨城県ひたちなか市）

慶應義塾大学三田キャンパス

湘南藤沢キャンパス

参加学生：慶應義塾大学・筑波大学・常磐大学

水戸第一高校・明秀学園日立高校

水戸第二高校

3. 成果

8月中に茨城県ひたちなか市及び水戸市内の各会場にて参加者15人が集い、10回程度ミーティングを行った。ミーティングは、「フィールドをひたちなか市とし、ひたちなか海浜鉄道湊線を軸とした地域活性化案を考える」というテーマで行った。

高校生がミーティングの主体となり、高校生がアイデア出しを行う助言や方向性の修正などを大学生側が行った。また、プレゼンテーション作成に関する助言なども行った。

ミーティングのうち、那珂湊や阿字ヶ浦で開催したものは、実際にフィールドワークを行い、アイデアを実際に実施することが可能か否かや地域活性化に本当に資するものであるか否かという点について話し合いを行った。

那珂湊駅でミーティングを行っていた様子は、同じく有澤誠研究室で行っていた「みなとメディアミュー

ジウム」とともに常陽新聞や交通新聞に取り上げられた。また、関東鉄道局の広報誌の取材も受けた。

9月以降は慶應義塾大学に舞台を移してミーティングを行い、高校生によって最終プレゼンも行った。

以下のスライド7枚は、その際に発表されたものである。

水戸都市圏における公共交通を軸としたまちづくりワークショップ

最終発表

水戸第一高校三年 大信一樹
水戸第一高校三年 飯島大地
明秀学園日立高校三年 沼田周
明秀学園日立高校三年 植野公平
明秀学園日立高校三年 大畑将徳
明秀学園日立高校三年 岡部圭

1. ひたちなか海浜鉄道沿線について

高校生は沿線に遊びに行かない

→沿線に行かない理由

- ・湊線の存在がわからない。
- ・那珂湊より水戸に行く。

「JR線の放送で、湊線の存在に気付かなかった。」
(笠間在住)

「遊びに行くには、そのまま水戸まで行ってしまおう。」
(日立在住)

2. 沿線活性化に必要なこと

- ・「湊線」の存在を十分に知ってもらうこと
- ・高校生を呼び込む魅力的なものを作ること

3. アイデア

(1) 勝田駅・JR線の放送を変える。

(2) ナイトバザールを行う。

3-1 アイデア(1)

「勝田駅・JR線の放送を変える。」

- ・湊線のホームにBGMをつけてしまう。
- ・JR線の放送で「湊線」を強調する。

→

勝田駅利用者の誰もが湊線を知る。
湊線に乗りたくなる。(?)
若者の“ウケ”が良くなる。

3-2 アイデア(2)

「ナイトバザールを行う。」

- ・「エキナカ」で。
- ・自由に店を出せるようにする。
- ・特産品・・・すなわち、魚介類を活かす。

→

他の地域の人が遊びに来やすい。
地域活性化が可能である。
那珂湊の認知度が向上。
湊線に親しみが持てるようになる。

4. まとめ

- ・いくつかの地域から高校生が集まったため、湊線に関する新たな視点を得ることができた。
- ・地域活性化のアイデアはすぐ思いつくものだと考えていたが、実際は条件をクリアしたものを出すのが難しかった。
- ・「みなとメディアミュージアム」に沿線住民が明るく協力している様子を見て、地域活性化には沿線住民の活力が不可欠だと感じた。

最終プレゼンとその後の質疑応答の様子はビデオ撮影で記録しており、記録映像は11月23日・24日に六本木ヒルズ40階にて行われたOpen Research Forumの有澤研ブースにて放映した。

6. 謝辞

「水戸都市圏の交通を軸としたまちづくりに関する学生間研究ミーティング」開催にあたって、場所を提供していただいた「茨城県青少年会館」「ひたちなか市商工会議所」及び「ひたちなか海浜鉄道株式会社」ならび、活動の全面的な支援をしていただいた「おらが湊鉄道応援団」に感謝したい。また、本ミーティングは09年度湘南藤沢学会「シンポジウム・ネットワーク基金」の援助のもとに行われた。